

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294201401		
法人名	株式会社ファミーユ		
事業所名	グループホーム つぐみ押切		
所在地	静岡県静岡市清水区押切2119-1		
自己評価作成日	令和2年10月2日	評価結果市町村受理日	令和3年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2019_022_kani=true&JigyosyoCd=2294201401-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和2年11月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念である「利用者様の思い願いを第一に考えるケアの実践」を理念に、一人一人のこれまでの生活歴や性格、大切にしてきたもの、繋がり等のアセスメントを細かく行い、職員が把握、情報を共有し合い、グループホームでの生活に活かせるよう心掛けています。私たちは、たとえ認知症があっても常に傍に寄り添い、その方を尊重し、その方の思いを大切にしています。言葉や行動への戸惑いがあるとしてもそのしぐさや行動から読み取り、気持ちを汲んで共同生活に活かしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近くに在る保育園の第三者委員を引き受けるなどフットワークの高い管理者は、台風襲来予告を耳にするとすぐさま備蓄庫から全て出して地域交流室に並べ点検、一人1つずつ懐中電灯に使用の単一電池も販売できそうなほど増やして万全を期しています。また、海外の実習生を引き受けていることもあって日中には職員4名が配置され、利用者2名に対し職員1名との潤沢な日もあります。しかもコロナ禍で外出が難しいことを契機に「中のケアの見直そう」としており、「日本食が作れるようになりたい」との実習生の思いも叶えようとしていることも併せて、ケアサービスが益々充実することが予想されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様の思いや願いを第一に考えるケアの実践を理念とし、新人オリエンテーション、職員研修、会議等で理念に対し、全員で再確認している。	自己評価と面談とでマネジメントサイクルに乗せた成長への仕組みはあるも、「職員が自身の強みと弱みを掴んだ客観的視点をもっているか」については管理者は課題としています。	せっかく捉えた課題ですので、具体的な支援につなげて職員の前進に実る仕組みとなるよう期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	公園に散歩等にでかけ地域の方と挨拶を交わす程度。近隣の保育園と敬老会の時に少し交流ができた。	職業体験を通して親しさを増し、後に吹奏楽部仲間との慰問となった例も以前にはありませんでしたが、本年度は近所の保育園がハロウインのとき仮装の晴れ姿を披露くださった機会のみです。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症ケアへの取り組みや事例を通して認知症への知識を深めたり、事故などの報告から認知症を抱える人の行動や危険予防について共有している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	包括職員や民生委員の方、ご家族に施設内での事故やヒヤリハットを公開し、ご意見やアドバイスをいただいている。後日、施設内で共有しケアに取り入れている。	5月、7月、9月、11月と書面開催とし、2ヶ月毎の活動内容をまとめてメンバーに配付しており、参会は断念しています。また内容は家族にもつぐみ新聞とともに届けています。	条例下の制度のため、「見た」「確認した」との返信を以て行政関係者の出席を担保するとともに、メンバーの意見を集める工夫があると、なお良いと思います。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の方や後見人が必要な方などに対し生活支援課や介護保険課の方に、日々の報告や相談を行う等連携している。	シニアサポーターの登録事業所ですが、現在は往来はありません。生活保護受給者を受け入れている為生活支援課とのやりとりがあり、「本人にとって必要なものだけ購入可能か」等都度連絡しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回以上身体拘束や虐待をテーマにした研修を実施し、学びや意識の向上に取り組んでいる。また、玄関の鍵は日中は施錠せず、常に開放的な環境を実践している。	身体拘束等適正化検討委員会では「普段より早く目が覚めて～」の事例には「起床と就寝の関わりに不適切なケアはなかったか」など、現場で起きていることでの協議があります。また年1回「身体拘束ゼロ宣言6つの基準」のチェックリストにも取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修を通して、拘束や身体拘束への理解を深めている。また、スピーチロックや日々の言動について気になるケアを発見した場合は必ずその場で話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人等制度を利用しているご利用者がいるため、制度について口頭や書面で職員の学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面や口頭で丁寧に説明し、質問や不安等を確認し、必要時は再度説明したり別紙を設けて理解を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン更新時、担当者会議等、電話連絡や面談時にご意見などを会社や職員に共有し反映している。	家族からはマスク生地や手作りマスクが届いており、良好な関係が覗えます。「周囲に体調不良者はないか」「県外に2週間以内に出てないか」等確認のうえ、家族との同伴外出希望にも応えています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と主任が職員の個人面談を年1回行い、職員の意見や質問を承っている。また、代表者は年に2回、職員全員と個人面談を設け処遇や働き方など意見を聞いている。	全体会議と管理者会議が毎月1回あり、上下左右のコミュニケーションが図られ、またテーブルのガタつきに気づいて入れ替えたり、重度化によりお風呂のリフト導入を検討することが現場に溶け込んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は定期的に事業所に伺い職員の日々の仕事ぶりを確認したり、管理者からの報告を受け給与水準、労働時間、やりがいがある様施設環境、整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全員の会議にて内部研修毎月1回(テーマ2つ)、外部研修(認知症実践者研修や介護技術)、また新人にはOJTによる教育を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎年グループホーム協会で開催している研修に参加し、他事業所との交流を図っているが、今年度は保留中。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前に何度か訪問させていただき、ご本人より聞き取りをしながらアセスメントを行い、ご本人が安心してサービスを受けられるようご利用者や職員との関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に、ご家族からの困りごと、ニーズを聞き出し、アセスメントを行いながら信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者、ご家族の今必要としていることを聞き取り、心身状況から実際のプランに反映し、ケアに取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	関係作りを深めるよう、昼食時はご利用者と職員が一緒のテーブルで同じ内容の食事をしたり、家事活動(洗濯や買い物、料理等)も一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の活動の様子を写真や報告書にまとめて家族に郵送したり、ご本人の希望などがあれば電話や面会時に相談しながら外出や買い物、外泊を促している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	できるだけ自宅で過ごした環境に近づけるよう、ご自宅で使い慣れた家具や小物、食器を持参していただいたり、馴染みのある場所への買い物を行っている。ご友人にも面会に来ていただいている。(現在買い物や面会に制限あり)	コロナ禍の面会は予約制、検温、手洗い、消毒を以て可能としていて、家族と出かけて夕食を食べて帰ってくる人もいます。「できない」とはせず、なんとか工夫して希望に応えるよう努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士が関わりが深まるよう、買い物や散歩等に気の合う人と出掛けたり、工作や家事を皆さんで共に行い、助け合ったり、達成感を味わっていただけるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用が中止となった方に現在利用中のご利用者や職員が年賀状を書いて出している。入院により退去となった家族と連絡を取り合い相談などを聞く		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で利用者の発言や様子などから職員同士が記録に書いたり会議等で話し合いながら希望や意向の把握を行っている。	「生活の日課」「希望や好み」「自分でできていること」「サポートが必要なこと」を1枚のシートに集約させてこれまでの暮らしが続くよう支援するとともに、現在アルバムにまとめて、可視化させることも始めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用開始時にご自宅に訪問し在宅生活での暮らしの様子を把握したり、生活歴やこだわり、家族関係、これまでのサービスの経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや記録等で日々のご利用者の様子を観察、共有し、個々のご利用者の一日の過ごし方や心身状態、有する力を常に意識、把握できるよう努力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議や職員会議等でその方らしい生活に向けて、ケアのあり方や課題を抽出し、解決に向けた取り組み内容の意見を出し合い、介護計画を作成している。	利用者の想いを叶える方向を持ちつつ、一方で現場のポテンシャルの兼ね合いに葛藤があることも否めず、理想通りの介護計画書への道のりは牛歩なもの、長短の目標は期間を項目ごとにするこまめさです。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、申し送りを行き共有・実践・見直しに努めている。職員会議等で出た意見を検討し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族がその時にしたい事、してあげたい事が出た場合には職員、事業所で検討し実践している。(自宅・買い物等への外出等)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のスーパーや洋品店に出掛ける等、楽しみや懐かしさを感じながら豊かな暮らしに繋がるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族と相談しながら、かかりつけ医を決定、連携を図っている。	訪問診療をおこなう協力医に8名が変更、1名は以前からのかかりつけ医(透析)を継続しています。人数分を一覧にして事前に医師へFAX送信、また勤務の看護師も立ち合い、適切な受診につなげています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常での変化等があった場合は看護師に相談し共有を行っている。内容により対応の変更をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	こちらでの生活の様子や基本情報等の情報提供を行っている。面会を行い様子の確認や状態を確認している。また退院時には退院カンファレンスに参加している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人及び家族、主治医、看護師と相談しながら方針を決定し、職員もその方針を共有しながらチームとして支援に取り組んでいる。	「重度化対応・終末期ケア対応方針」で契約時に家族に説明したうえで、状態変化に応じて医師の意見を仰ぎ、家族の意向を都度確認していますが、状態変化におけるその後の取組みは、医師から家族に話してもらうこととしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日常業務の中で看護師が職員へ向けて指導を行ったり、職員内部研修で緊急時の対応方法についても学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を行い避難の方法や集まる場所等の確認をしている。災害の種類に合わせ、避難方法を検討し実施している。	風水害マニュアルは、全事業所のバラつきをなくす目的で作直しています。4月、11月は日中の火災想定で実施、11月は水消火器も借りて消防署の立ち合いを求めましたが、指摘事項はなく完了しています。	新採者のオリエンテーションで避難経路と通報装置だけは説明をおこなっておくことを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	アセスメントや日常生活の中での様子や性格から、それぞれご本人に適した声かけ等の対応をしている。また、虐待等の研修から声かけの大切さや本人に決定権や選択肢が無い声かけにならないよう注意している。	「お手伝いしてくれる?」「お願いね」といった声かけが職員から自然にでており、また「不安だから介助を2名にして欲しい」も必要に応じて上がり、また管理者も好みを把握して担当者を決め、体制を整えています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で選択できるような質問を行い、自己決定ができるよう働きかけている。また、表情やしぐさからその方の希望を読み取るように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝時間、食事や入浴など本人のペースや思いを優先し、希望に添える様に努力、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に、その日に着たい服を選んでいただいたり、その方のこだわりを大切にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいメニューを聞き、食事に取り入れたり、買い物や調理、片づけを職員と一緒に進めながら食事が楽しめるよう支援している。	1週間分の献立をベースに個々の食べやすさなどを考慮してさらにその日の担当者が手を加えています。買い物や調理を一緒にすることは避けており、コロナ禍のレベルを鑑みて対応を替えています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量や水分量を把握し、またご本人の希望や体調を確認しながら栄養バランスの摂れた食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い清潔保持に努めている。本人でできる所はしてもらい、難しいところを介護している。また、訪問歯科による定期的な診察や治療、口腔ケア等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、ご本人に合わせた誘導の声かけや確認を行っている。	夜間はテープ式おむつでも日中はリハビリパンツとパットにして「なるべくトイレで」を励行していますが、「トイレにしたいかどうか(本人が怖いという気持ちもあるため)」を確認したうえで取組むようにしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	生活リズムパターンシートや記録、申し送りで便秘の方を把握し、センナ茶や乳製品、朝1番のお水など予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の希望や体調に合わせて入浴を提供している。また、ご本人の入浴時間やペース等に配慮し個々にそった支援を行っている。毎月お花など使用しお風呂のイベントを実施している	入浴も余暇の一環として、レモンや林檎のフルーツ風呂、バラ風呂のほか、毎月のイベントではミルク風呂にも挑戦、創意工夫を凝らしています。また、家族に届ける便りにも掲載して愉しさを共有しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活習慣や年齢、体調等にに合わせて休息を促したり、安心して気持ちよく眠れるように室温や照明を調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルにて保管、把握し、変更時も申し送りや記録にて情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴やその方の持っている力を活かせるよう家事の手伝いや買い物、趣味を職員と一緒にやっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に添って散歩や買い物に出かけたり、家族にも協力していただきながら外出等の支援を行っている。(現在は職員が代行)	洞慶院での紅葉狩りや高松宮妃のお雛様観覧は毎年の恒例外出でしたが本年は無理となり、散歩が中心となっています。法人でシニア専用カフェをオープンしたことから、コロナ明けを心待ちにする毎日です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	欲しい物を確認し、一緒に買い物に出かけてレジの精算をご本人に行ってもらっている。体調不良等で外出が難しい場合は代理で購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望により暑中見舞いや年賀状を出したり、電話をかけたたりしている。その際、職員が番号を調べたり住所を記入する等の協力をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食材の紹介や調理の匂い、室内温度、テレビや音楽等の音等、日常生活の中で五感を刺激したり、季節にあった花や飾りをフロアに置く等、居心地の良い空間を作り心に心掛けている。	換気は感染症対策期間(10月~3月)には力を入れていましたが、本年は更に朝10時と午後3時、夕方と1日3回とし、ウイルス対策の機能がついた空気清浄器も増やしています。また掃除も夜間のみでしたが、日中にもおこない頻度を上げています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内に作業スペースを設け、趣味や特技を活かせる空間を設けたり、ソファを並べ気のある仲間とくつろげる居場所を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時から馴染みの家具や好みものを持ってきていただいたり、好きな物を置いたりしながらご本人が居心地の良い場所になるよう工夫をしている。	足腰が不安定となり、「つかまれるように」と家具の配置を替えた例もあり、ADLや症状の変化に合わせて工夫しています。また、正月に向けて年末にはフラワーアレンジメントで居室を飾る企画も予定しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーとなっており、手摺などで歩行の補助や安全性を確保している。トイレや浴槽も麻痺の状況により使い分けられるよう作られている。		